

< データベース部会 > 授業実践計画案

校種 : 中学校
学年 : 2 学年
教科 : 国語
単元名 : 『書く・2』
学習材名 : 「意見を書こう」

国 語 科 学 習 指 導 案

日 時 : 平成17年 11月7日 (月) 5校時
指導学級 : 仙台市立五橋中学校 2年5組 36名
指導者 : 同校 教諭 及川 勝成

(1) 単元について

情報社会において、氾濫・拡散した情報の中から、自分自身の考えや判断をしっかりと持った上で、適切かつ必要性のある話題を選ぶことは、とても重要なことである。また、説得力のある意見文を書くためには、その話題に対して強い興味・関心を持っていることが不可欠である。

本単元では、学習を通して、

自分の立場を明確にして意見を述べるためには、どのようなことに注意しなくてはならないかを再確認させること

その上で、

新聞(情報や意見)を題材として取り上げ、自らの課題意識に応じて適切な情報や意見を受け取り、取舍選択する力をつけさせること

さらに、

自分自身が選んだ情報や意見をそれぞれの課題意識にもとづいて再構成させ、自らの立場や根拠を明確にした意見を文章化して発信させること

をねらいとしている。

新聞の中にある、読者からの投書や社説などには、生活者としてまた専門家として、いろいろな立場や視点から意見が書かれている。書き手が、何について、何を根拠に、どのように考えたのかも明示されており、意見を述べる際の参考になるとともに、生徒自身も自分の立場を明確にしやすいのではないかと考えられる。

ここでは、生徒の社会的事象に対する興味・関心を引き出すとともに、自分自身の立場を明確にし、その立場になって自分の意見を論理的かつ的確に主張するという体験をさせるため、新聞の中にある情報や意見を題材として取り上げ、それに対する意見文を書かせるようにしたい。

(2) データベース活用の利点

本学習材は、他者の意見に反対であるとき、その理由を明らかにして反論する技術の習得を目的としている。そのような反論の訓練のためには、その対象とする文章は、原則として次のような条件に従って選択されることが望ましいであろう。

主張が明快であり、その主張を支える根拠がきちんと書かれていること。

論じるのに、特殊な専門知識を必要とせず、日常の関心から、ごく自然に議論に入っていけるような内容を持っていること。

読み手を刺激し、自然に反論を返したくなるような文章であること。

これらの条件を、確実に満たすものとして、一番身近で適切なものが、新聞の投書欄に寄せられた意見の文章であるといえる。幅広い年齢層の、実にさまざまな視点から述べられた、しかも“掲載”という形の各新聞社の厳しい“推敲”がなされた、選りすぐりの文章揃いである。そんな投書欄の文章を、過去にさかのぼって、しかも自らの興味・関心や課題意識に応じて焦点化して効率的に情報を収集できるのが、新聞データベース活用の最大の利点と考える。

(3) 指導にあたって

情報活用に関する、生徒の事前アンケートの結果(別紙参照)では、“情報を手に入れようとする際によく使う方法”(よく使うものを上位3つまで選んで回答)は、インターネット・28名、テレビ・26名、本や雑誌・22名であった。家でインターネットを使用している生徒も、36名中27名と多く、技術科や総合の授業において取り組んでいることもあり、“調べたいことがあったときに情報を検索することがある”という生徒も、“ときどきある”も含めて同数程度おり、コンピューターに対する関心は高いといえる。

新聞に対しても、“毎日読む”という生徒は少なかったものの、“ときどき読む”を合わせれば24名にも上り、決して意識が低いわけではない。また、本校は2年間のNIE実践協力校を経て、今年度も、日本新聞販売協会による全学級に対する新聞の提供事業が継続しており、朝の会・帰りの会などでの新聞記事の紹介や、教科や各学級においてのスクラップ活動は、日常的に定着しつつある。そんな生徒たちにとって、過去にさかのぼって目当ての記事を手にすることができるという有効性は、大いに感じ得られるものと考えられる。授業においては、それらの実態を十分に踏まえた上で、生徒たちの興味・関心を上手く引き出せるような展開を構築していきたい。

(4) 指導計画

指導目標

相手の意見を正確に理解した上で、自分の立場をはっきりさせ、事実と意見を区別して文章を書く。

- さまざまな人々の多面的な意見や考え方を知った上で、自分の興味や関心を生かし、社会的事象に対する課題意識を深め、自分なりのものの見方や考えを持つ。
- 相手の意見を正確に引用するとともに、文章構成を学び、自分の表現に生かす。

- ・自分の立場や伝えたい意見が相手に伝わるように、根拠を明確にし、論理の展開を工夫する。
- ・書いた文章を読み返し、不足な点を見つけ、文章を整えて、読みやすく分かりやすい文章にする。
- ・書いた文章を互いに発表し合い、論理の展開や今後の自分の表現活動に役立てる。

学習計画（全6時間）

- （1） 自分の立場を明確にし、意見を述べるためにはどうすればいいのか考える。どのような方法で意見文を書けばいいのか、その具体的な方法を知る。
- （2） 新聞の投書欄を通して、意見の述べ方を知る。
投書の中から、自分の興味・関心のある題材を選ぶ。 <本時・2 / 6 >
- （3） 選んだ投書をもとに、自分の意見をまとめ、作文の構想を立てる。
- （4） 意見文の下書きをする。
- （5） 自分の書いた意見文を読み返し、推敲、清書する。
- （6） 意見文をもとに発表会を行い、よりの確な文章となるよう助言し合う。

（5）本時の指導

ねらい

新聞には、投書欄に読者の“意見”が掲載されていることに気づき、その構成や表現方法を理解するとともに、自らの課題意識に応じて、反論する話題を考え、選択することができる。

（関心・意欲・態度）

相手の意見を正確に理解した上で、自分の立場をはっきりさせた反論文を書こうとする。

（読む・書く能力）

意見を書いた文章を読み、主張の部分とそれを支える根拠の部分を確認することができる。

< 情報教育の目標リストとの関連 >

情報活用能力の3要素 : 情報活用の実践力

定義からの分類 : 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造する

教科における「学習内容」	情報教育に関連する「学習活動」
・広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。 （A話すこと・聞くこと） （ ）	・情報教育ネットワークなどを利用して、広範囲から集めた情報を、読解してものの見方や考え方を深める。 （収集・判断）

<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活や学習の中から課題を見つけ、材料を集め、自分の考えをまとめること。 (B書くこと) () 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある課題に対して、それに関連する情報をさまざまな方法で収集し、自分の考えをまとめる。(収集・判断)
<ul style="list-style-type: none"> ・広い範囲から課題を見つけ、必要な材料を集め、自分のものの見方や考え方を深めること。 (B書くこと) () 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い範囲から課題を見つけ、図書館や情報通信ネットワークなどを利用して、ものの見方や考え方を深める。 (収集・判断)
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見が相手に効果的に伝わるように根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。 (B書くこと) () 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークなどから収集した資料を活用して、自分の意見を効果的に相手に伝える工夫をする。 (収集・表現)
<ul style="list-style-type: none"> ・目的をもってさまざまな文章を読み、必要な情報を集めて、自分の表現に役立てること。 (C読むこと) () 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークなどから収集した情報を、自分の意見を効果的に表現するために、著作権に配慮しながら活用する。 (収集・表現)
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。 (C読むこと) () 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報手段で集めた複数の文章を、それぞれ比較しながら読んだり、調べながら読んだりする。(収集・判断)

データベースの活用

反論文を書く際の、もととなる適切な文章を見つけることは、多くの生徒にとってやや難しい作業であるといえる。まして、生徒のさまざまな興味・関心に応えられるような、多種多様な話題についての文章となるとなさらであらう。そこで本時では、新聞の投書欄の存在とデータベース検索の活用をそれぞれ紹介することで、生徒の適切で効率的な題材選びの一助としたい。

指導過程

段 階	主な学習活動と指導上の留意点	提示資料および検索活動	目標リスト
導 入	新聞の投書欄の存在を知る ・実際に新聞の投書欄の中で線り上げられている議論を資料として取りげる。 意見の述べ方を確認する ・意見交換の様子を通して、賛成意見や反対意見の述べ方の要点を確かめる。	投書欄に特集として取り上げられた議論の紙面 意見や根拠が明確に述べられている投書記事 (中高生の投書記事)	() () () ()

展 開	興味や関心のある意見を考える ・ 現在自分の興味や関心のある話題で、意見文が書けそうなものを考える。	<グループ活動で行い、テーマを絞り込む>	()
	反論する意見文の根拠をあげる ・ 自分が選択した話題について、反論の根拠となるものをいくつかあげる。	<グループで話し合ったものを、各自ワークシートにまとめる>	()
	新聞データベースで検索する ・ 話題についての直接の反論の投書や、反論の根拠に関する記事を検索する。	話題についての反論の投書や関連記事を、投書欄や全紙面より検索	()
まとめ	選んだ記事を紹介する ・ 選び終わった生徒から、その記事を紹介し、決まらない生徒の参考にする。	生徒が選んだ記事 <可能な限りプリントアウトする>	()
	次時の見通しを立てる ・ 選んだ記事をもとに、自分の意見をまとめ、意見文を書くことを知る。	<各自の意見文はワープロを用いて文章構成を行うようにする>	()

評価

- ・ 新聞の投書欄に読者の“意見”が掲載されていることに気づくことができたか。
- ・ その構成や表現方法を理解することができたか。
- ・ 自らの課題意識に応じて、反論する話題を考え、選択することができたか。

態度・話し合いの様子・発言・選んだ記事・ノートやワークシートの記述などより

(関心・意欲・態度)

相手の意見を正確に理解した上で、自分の立場をはっきりさせた反論文を書こうとする、気持ちや姿勢がみられたか。

- <基準>
- A 客観的な反論の根拠をあげ、説得力のある文章を書こうとする。
 - B 相手の意見とその根拠を正確に理解して、反論文を書こうとする。
 - C 事実と意見を区別して、文章を書こうとする。

(読む・書く能力)

意見を書いた文章を読み、主張の部分とそれを支える根拠の部分を確認し、理解することができたか。

- <基準>
- A 構成や表現面にも目を配って、文章を書く参考にすることができる。
 - B 自分なりに区別して線を引き、比較して確認することができる。
 - C 主張と根拠が、意見文の大切な要素であることがわかる。

意見を書こう

《復習》

意見文（反論文）の書き方の手順
意見を書いた文章を読む
相手の主張とその根拠を確認する
反対の理由を書き出す
相手の意見を正確に引用する
構成を考えて文章をまとめる

自分（たち）が選んだ意見文

タイトル（題名）

相手の主張と根拠

主張（の一文）

その根拠

（箇条書きで）

自分（たち）が考える反対（意見）の理由